

振興環境委員会
下奥議員質問

中部国際空港にカジノ！？
下奥議員厳しく批判!

下奥議員は、国際展示場の稼働率・入札方法について、そしてその周辺に誘致の動きがある「統合型リゾート施設」について質問をしました。

稼働率については当初30%で収支均等できると示してきたのに対し、25%と修正された根拠を問いました。県は、条例案が具体的になり、それをもとに25%とした、と答えましたが、現在の問い合わせは50件あるものの、確約した予約はまだなく、ますます不安がつゆる計画となっています。

入札は、総合評価方式で技術評価や入札金額に加算点をつけ、評価点が一番の竹中工務店としました。ところが、予定価格を公表したうえでの入札で、予定金額以内であればどれも30点加算されるものです。そのため3社がすべて予定価格316億円余で入札。価格競争は排除された高額・高率の落札となっています。下奥議員は「技術もちろん重要ですが、『総合的に』というならば、価格と技術が両方きちんと勘案されるべき」と指摘しました。

そして、大問題であるのが、今国会でも審議がされている「カジノ」です。空港島と前島を合わせ、カジノを含む「統合型リゾート施設」が誘致される懸念があるものです。

下奥議員がまず「大規模展示場はIR整備や、カジノ構想を推進するためのものではないですね」と確認したことに対しては県は「展示場は愛知の産業力を発信していくことを目的としている」と答えたものの、「カジノを含む統合型リゾート施設が誘致されることをどう考えるか」との質問に対して県は「常滑商工会議所と意見交換しながら、メリットと課題を含め研究していく」「展示場に多くのミス（会議、大会、展示など）を呼び込むことができる」と答えました。下奥議員は「カジノは未来ある若者を狂わせるもの」「大規模展示場を、カジノを含む統合型リゾート施設を呼ぶためのものにするのは言語道断」と厳しく批判しました。

一方自民党県議は、大阪、横浜、札幌など他都市の例を挙げ、「愛知でも方針を早々に決め横断的に取り組んでほしい」と県に求めています。



委員会に臨む下奥議員（一番奥）

あいち航空ミュージアム

展示の仕方について県は「順次知らせていく」としか言わず、歴史認識にも触れませんでした。下奥議員は「高い航空技術を伝えるの異論はない。しかし、その技術が軍事利用された負の歴史も伝えるべき。」と、歴史の伝え方、展示の仕方を考えていくことを強く求めました。

コミュニティバスに補助を

高齢者ドライバーの事故が多発する中、車なしでは生活できない現実もあり、若者の車離れも増えています。下奥議員は地域の生活に欠かせないコミュニティバスの充実こそ地域の活性化には必要であると県の姿勢を質し、県として、県民の声を聞き、補助をしていくことを求めました。

ホームドアの設置を早急に

転落事故や飛び込みなどが相次いでいます。事故防止にホームドア設置が有効なことは県も同じ認識でした。しかし、質問の中で、県内の設置率は低く、名古屋駅に集中していることが明らかになりました。下奥議員は「人命を最優先し、モノづくり愛知をいうなら、積極的に取り組む姿勢を」と指摘しました。